

SSS028-02

会場:302

時間:5月26日 08:45-09:00

## 長野県西部地震の震源域における高分解能応力場 High-resolution crustal stress field in the focal region of the Western Nagano Prefecture earthquake

飯尾 能久<sup>1\*</sup>, 堀内 茂木<sup>2</sup>, 行竹 洋平<sup>3</sup>, 千葉 慶太<sup>1</sup>  
Yoshihisa Iio<sup>1\*</sup>, Shigeki Horiuchi<sup>2</sup>, Yohei Yukutake<sup>3</sup>, Keita Chiba<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 京都大学防災研究所, <sup>2</sup> ホームサイスマメーター, <sup>3</sup> 神奈川県温泉地学研究所

<sup>1</sup>DPRI, Kyoto Univ., <sup>2</sup>Home seismometer, <sup>3</sup>Hot Springs Research Institute

長野県西部地震の震源域において、地震メカニズム解を用いた応力逆解析により、1kmメッシュの空間分解能で応力場を推定した。長野県西部地域では、四半世紀にわたって微小地震活動が継続しているが、1995年から始まった高精度の稠密地震観測により、大量のデータが蓄積されている。1995-2007年に精度良く決定された地震は約3万個、そのうち、メカニズム解の節面の方位の誤差が10度以内に推定されたものは約2千個存在する。今回は、断層面解の任意性を考慮した応力逆解析により、1984年の震源断層沿い、および断層周辺における応力場の不均一を推定した。

Yukutake et al.(2010)によって指摘されているように、断層周辺では逆断層型、震源断層沿いにおいては横ずれ型の応力場が卓越する。より詳細に見ると、断層沿いにおいては、地震すべりが起こったと推定される領域では横ずれ型であるのに対して、それ以外では逆断層である傾向が見られた。断層周辺では、低速度異常域の近傍で応力場の乱れが見られた。

キーワード: 内陸地震, 応力場, 長野県西部地震, 断層, メカニズム解, 低速度異常

Keywords: intraplate earthquake, stress field, Western Nagano Prefecture earthquake, fault, focal mechanism, low velocity anomaly